

9月5日（金）「平和の尊さを考える 平和学習」

各学年で、平和学習を行っています。平和に関する画像や絵本・図書等を使って学習しています。平和への思いを、これからも継承していきたいです。

～子どもたちの思いや考え等～

- ・せんそうは、かなしくて かぞくが なくなってしまう。せんそうは、だめです。
- ・（絵本を読んで）男の子が、たおれている ところが かなしかったです。
- ・どこかで、今も せんそうを していることが、とてもかなしいです。
- ・みんなで へいわにしたいです。
- ・せかいじゅうの人の いのちや心が うしなわれるのが、かなしいです。
- ・もう、世界の国のみんな戦争をしないようにしたいです。戦争は、人や生き物をきずつけて、だれもしあわせにならないので、ぜったいに戦争はしないです。
- ・ひいおばあちゃんが、畑で遊んでいたら、空を飛行機（爆撃機）が通った話を聞き、戦争がきらいになりました。平和がいいと思います。「ねがうだけでは、平和はおとずれない」と、聞いて自分たちで平和をつくろうと思いました。
- ・ごはんを食べられること、帰れる家があること、勉強が、できることを「当たり前」ではなく、「きせき」と思って感謝すること。平和のために、今、自分ができることです。
- ・平和のために、今、自分にできることは、みんなと協力し合って日常を送ることや、絶望的なじょうたいでも、希望の光を信じて前を向いて生きていく、命を大切に生きることです。

「ひいおじいちゃんやひいおばあちゃんから、戦争の話を聞きました。」という子どもたちも、たくさんいました。戦争の痛みや悲しみ、そして、平和への思いを家庭でも引き継いでくださっていることに、胸が熱くなりました。





「平和への誓い」も みんなで よみました。〔広島市公式ホームページより〕

へいわ ちか
平和への誓い

目を閉じて想像してください。
緑豊かで美しいまち。人のにぎわう商店街。まちにあふれるたくさんの笑顔。
79年前の広島には、今と変わらない色鮮やかな日常がありました。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。
「ドーン！」という鼓膜が破れるほどの大きな音。
立ち昇る黒味がかかった朱色の雲。
人も草木も焼かれ、助けを求める声と絶望の涙で、まちは埋め尽くされました。
ある被爆者は言います。あの時の広島は「地獄」だった。
原子爆弾は、色鮮やかな日常を奪い、広島を灰色の世界へと変えてしまったのです。

被爆者である私の曾祖母は、当時の様子を語ろうとはしませんでした。
言葉にすることさえつらく悲しい記憶は、79年経った今でも多くの被爆者を苦しめています。

今もなお、世界では戦争が続いています。
79年前と同じように、生きたくても生きることができなかった人たち、
明日を共に過ごすはずだった人を失った人たちが、この世界のどこかにいるのです。
本当にこのままでよいのでしょうか。

願うだけでは、平和はおとずれません。
色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。

一人一人が相手の話をよく聞くこと。
「違い」を「良さ」と捉え、自分の考えを見直すこと。
仲間と協力し、一つのことを成し遂げること。
私たちにもできる平和への一歩です。

さあ、ヒロシマを共に学び、感じましょう。
平和記念資料館を見学し、被爆者の言葉に触れてください。
そして、家族や友達と平和の尊さや命の重みについて語り合しましょう。

世界を変える平和への一歩を今、踏み出します。

令和6年（2024年）8月6日
こども代表 広島市立紙園小学校 6年 加藤 晶
広島市立八幡東小学校 6年 石丸 優斗